作成日：2018 年 08 月 01 日
改訂日：2025 年 03 月 14 日

安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

1. 製品及び会社情報

製品の名称:ショーボンド　SBRACプロテクト
会　社　名:ショーボンドマテリアル株式会社
住　　所:埼玉県川越市芳野台2－8－10
担 当 部 門:品質保証課
電 話 番 号:049-225-5611　　F　A　X:049-225-5616
緊急連絡先:品質保証課　　電 話 番 号:049-225-5611
整 理 番 号:SBRACプロテクト-04

推奨用途及び使用上の制限:工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分4
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分2B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(心血管系・血液)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(血液)
環境に対する有害性:	水生環境有害性　短期(急性)	区分3
	水生環境有害性　長期(慢性)	区分3

※記載なきGHS分類区分:区分に該当しない／分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

注意喚起語:　警告

危険有害性情報:
H302 飲み込むと有害
H315 皮膚刺激
H320 眼刺激
H371 心血管系，血液の障害のおそれ
H373 長期にわたる，または反復ばく露による血液の障害のおそれ
H402 水生生物に有害
H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

予防策:
熱／火花／裸火／高温のもの のような着火源から遠ざけること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

対応:
火災の場合には、消火に粉末／炭酸ガス／泡消火器を使用すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを
着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で
休息させること。
下記の場合は直ちに医師の診断／手当を受けて下さい。
眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、
身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
漏出物を回収すること。

保管　容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が
立ち入れないような管理された場所で保管すること。

廃棄　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：　混合物（水溶液）

化学名又は一般名 （成　分）	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
亜硝酸リチウム	(1)-1213	13568-33-7	39～41
硝酸リチウム	(1)-765	7790-69-4	5 以下

4．応急処置

目に入った場合：　水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：　布で素早く拭き取り、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。

吸入した場合：　直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：　直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5．火災時の措置

消火剤：　大量の水。

使ってはならない消火剤：　情報なし。

特有の消火方法：　火災による加熱で当該物質が蒸発濃縮し、析出結晶が溶融した場合、溶融物の飛散を防ぐため、棒状注水を避ける。
可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。

消火を行うものの保護：　消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項：　保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
作業者は適切な保護具（手袋、保護眼鏡等）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。

環境に対する注意事項：　河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。

回収・中和：　土砂等（の不燃物）で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。

封じ込み及び浄化の方法・機材：　拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。

二次災害の防止策:　付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い　:

技術的対策:　「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用すること。

局所排気・全体換気:　「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。

安全な取り扱い注意事項:　周辺で火気の使用、発生のないこと。
使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」
「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
ホームページアドレス:https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。

接触回避:　「10.安定性及び反応性」を参照。

保管　:

技術的対策:　保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明
及び換気の設備を設けること。

保管条件:　日光の直射を避けて保管する。
火気、熱源から離して保管する。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。

混色禁止物質:　「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料:　金属製で密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度（ＡＣＧＩＨ）参照先：https://www.acgih.org/

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
亜硝酸リチウム	未設定	未設定	未設定
硝酸リチウム	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
亜硝酸リチウム	未設定	未設定
硝酸リチウム	未設定	未設定

設備対策：　換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具：　必要な個人用保護機器を使用すること。

手の保護具：　不浸透性の保護手袋

目の保護具：　保護メガネ

皮膚及び身体の保護具：　不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等:　液体

色　:　青色透明

臭い:　情報なし

融点／凝固点:　情報なし

	（乾燥し晶出した亜硝酸リチウムの融点は185℃）
沸点,初留点及び沸騰範囲:	情報なし
可燃性:	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界:	情報なし
引火点:	情報なし
自然発火温度:	情報なし
pH:	8～10
動粘性率:	情報なし
溶解度:	水：亜硝酸リチウムとしての溶解度は42%（0℃）
n-オクタノール／水分配係数（log値）:	情報なし
蒸気圧:	情報なし
密度及び／又は相対密度:	比重1.2～1.3
相対ガス密度:	非該当
粒子特性:	非該当

１０．安定性および反応性

	pH7.0以下で、窒素酸化物ガスを発生する。
安定性:	通常の取扱い条件(常温)においては安定である 非常に吸湿性が高い。
危険有害反応可能性:	酸化性を示す。条件によっては還元性も示す。
避けるべき条件:	酸、酸化剤との混合
混触危険物質:	酸性物質、ヒドラジン（水和物も含む）、過酸化水素、過マンガン酸カリウム等酸化性物質、アンモニウム塩等
危険有害な分解生成物:	乾燥して晶出した亜硝酸リチウムを更に加熱して分解させると有毒な窒素酸化物が発生する。

１１．有害性情報

急性毒性:	経口:	（亜硝酸リチウム） 経口 ラット LD50 419.3mg/kg 純品で区分4、水溶液としても区分4とした。 飲み込むと有害 急性中毒を起こす恐れがある 症状としては、吐き気、嘔吐、チアノーゼ、動悸、血圧降下。
	経皮:	
	吸入(気体):	情報なし
	吸入(蒸気):	情報なし
	吸入(粉じん・ミスト):	情報なし
皮膚腐食性／刺激性:		経験的に皮膚刺激性ありと判断。長期接触で炎症の恐れも。区分2とした。
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性:		経験的に眼刺激ありと判断。区分2Bとした。
呼吸器感作性:		情報なし
生殖細胞変異原性:		情報なし
発がん性:		情報なし
生殖毒性:		情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）:		他の亜硝酸化合物（ナトリウム、カリウム）に、心血管系と血液への影響情報が有り、可能性を採って、区分2とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）:		他の亜硝酸化合物（ナトリウム）に、血液への影響情報が有り、可能性を採って、区分2とした。
誤えん有害性:		情報なし

１２．環境影響情報

生態毒性:	（亜硝酸リチウムとして） TLm ヒメダカ 120ppm(24h)、84ppm(48h)、70ppm(72h) 当該ﾃﾞｰﾀより、判断して、LC50(96h) >10mg/l、≦100mg/l程度と判断し、区分3とする。水生生物に有害。

残留性・分解性:	情報なし
生体蓄積性:	情報なし
土壌中の移動性:	水溶液のため、土壌中に浸透する。
オゾン層への有害性:	モントリオール議定書の付属書に列記されている成分を含まない。

１３．廃棄上の注意

廃棄物処理法に該当するので、それに従う事。
施行規則別表第１
ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｱ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物は都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
具体的な処理法としては、ソーダ灰を混ぜ、水を加えてスラリーにし、次亜塩素酸カルシウムを加え静置し（数時間）、酸化された液を中和する方法も有るが、大量水での希釈が望ましい。酸類との接触は避ける事。
容器は清浄にしてﾘｻｲｸﾙするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

１４．輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

国内規制

陸上輸送：情報なし
海上輸送：情報なし
航空輸送：情報なし
国連分類：非該当
国連番号：非該当

１５．適用法令

労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9） 硝酸リチウム 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9） 硝酸リチウム 危険性又は有害性等を調査すべき物（法第 57 条の 3） 硝酸リチウム
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）:	非該当
消防法:	非該当
化審法:	白告示物質
環境基本法:	第16条 水質汚濁に関わる環境基準 別表1 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素（10mg/ℓ）
水質汚濁防止法:	施行令第2条有害物質 亜硝酸化合物
破棄物処理法	施行規則別表第1 アンモニア、アンモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物

１６．その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

１）ＧＨＳに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場の表示及び安全データシート（ＳＤＳ）：ＪＩＳ　Ｚ　７２５３：２０１９）
２）製品安全データシートの作成指針　平成１８年５月（社団法人　日本化学工業協会）
３）ＧＨＳ分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
４）原材料／製品メーカＳＤＳ